後樂園

751
1
□複写

751
1

史蹟名勝

後樂園略記

江戸時代の名園にして現存するもの全國には尚多數を算へるのでありますが、その幽雅精緻、自然の美と人工の妙とを兼ね備へ而も星霜數百年を經てよく舊觀を存するものは小石川後樂園を以て首となすべきでありませう。

後樂園は水戸藩主徳川氏江戸中屋敷内の後園で、寛永六年藩祖頼房が山水自然の趣致深き此地を造庭の偉才徳大寺左兵衛に命じて始めて築造に着手したのであります。小石川臺地の突端に位する園地は地勢高雅にして變化に富み、池沼樹林の景觀自ら大庭園の趣を有してをり造庭に際しても之等の好地景が巧に利用されてゐるのであります。本園は頼房の寛永末年には已に根幹を爲す地割意匠が定められ、神田上水を引いて水景を補修し中島を築き、丘陵を修めて景觀を整へ苑路を設け、松原、梅林、櫻馬場等を營んだ外數々の園亭祠堂が建設されました。時の將軍徳川家光は殊に本園を愛して親しく造庭を指揮し伊豆御用山の自然石を多數賜與されたと傳へられ、園の主景をなす大泉水、蓬萊島等は將軍の好みに成つたと謂はれます。又徳大寺石は名匠左兵衛の苦心を記念したものであります。

寛文元年頼房の薨じて後嗣子光圀は始祖の方針に基いて造庭の工を進め新たにその抱懐する儒教の修養精神を具體化した堂宇と支那風の意匠とを加へて遂に本園を完成致しました。聘せられて光圀の賓師となつた明朝の忠臣朱舜水が特異の技能を以てこの造庭に參畫し、後樂園の名稱を撰んだ事は著名な事實であります。この時代が本園の最盛期で、光圀畢生の大事業たるかの大日本史の編纂も園内の史局に行はれ、後水尾院、東福門院に於かせられては特に命じて園の書卷を天覽あらせられたと傳へてをります。

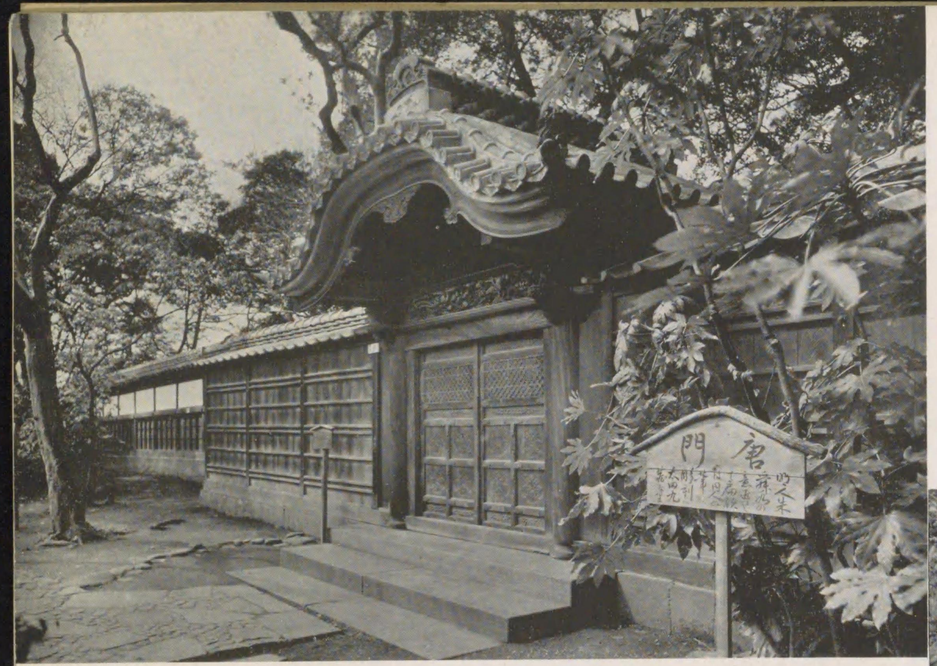
然るに元祿の末年以降、將軍綱吉の生母桂昌院の觀遊或は高松藩主松平頼豊侯の改修による變革並に數次の震火災に遭つて創築時代の壯觀は漸次失はれ、その後幾多の變遷を經て明治時代に至り、水戸藩邸の官收と共にやがて兵部省管轄となり造兵司が置かれ、爾來陸軍省所管の下に東京砲兵工廠敷地内に在つて保存される事になつたのであります。明治時代に於ける本園は前後三次に亘る　明治天皇の行幸を首めとして屢々内外貴賓の招宴場に充てられ、一般の縱覽は許されすとも名園の名を全園に擅にしてをりましたが、偶々工廠の移轉と共に昭和十一年十二月東京市の管理に移される事になりました。

本市は、曩に大正十三年三月史蹟名勝天然紀念物保存法により史蹟・名勝として指定せられた本園の維持保存並に復舊管理に全力を濺ぎ、茲に廣く一般に公開するに至つたのであります。

史蹟及名勝

小石川後樂園

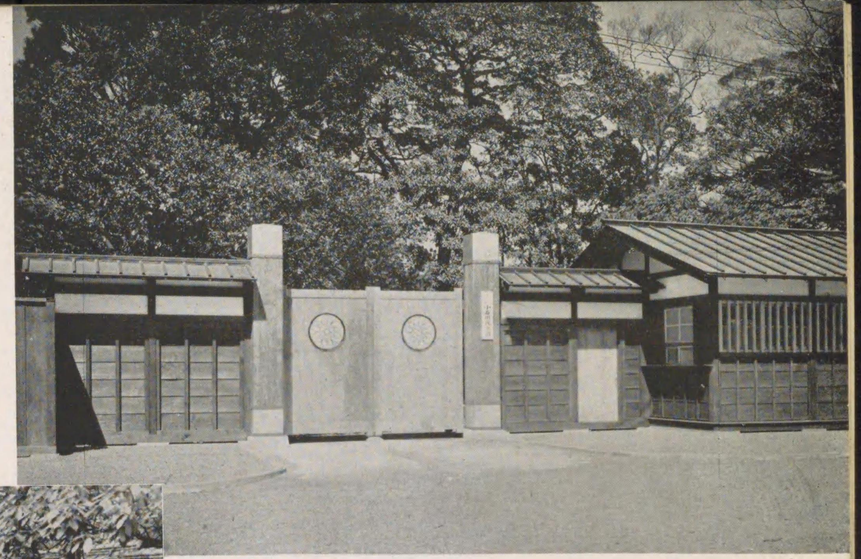
東京市役所管理

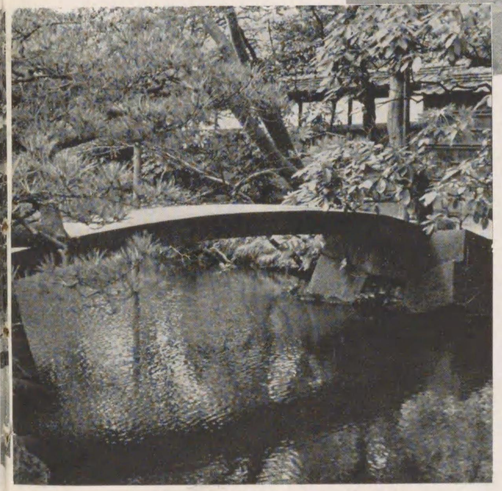


唐　門

後樂園の正門で光圀時代の建造
朱舜水の意匠に成り彫刻は太田九
蔵　創築築時代からの建築物とし
ては唯一のものです

新設した後樂園假表門



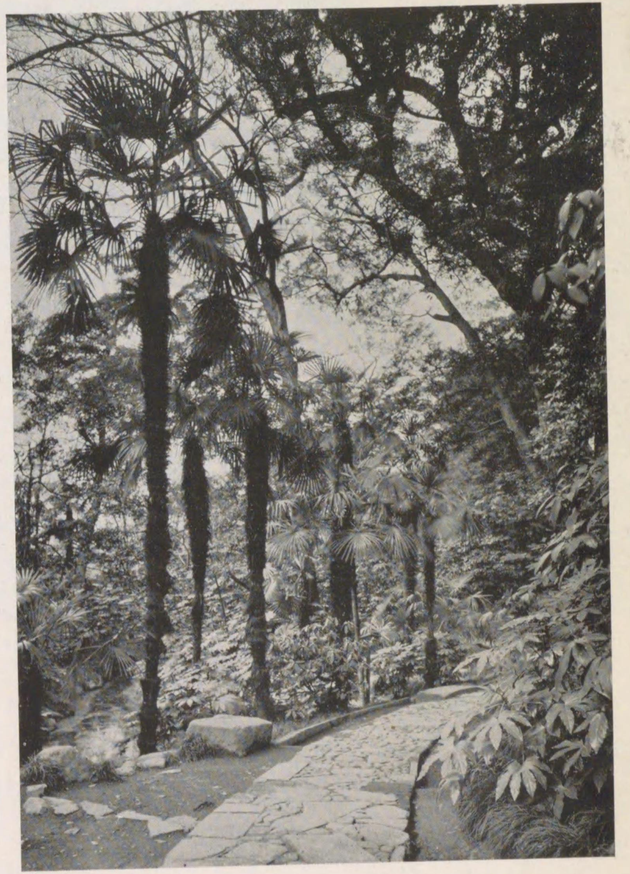


舊　内　苑

所謂書院庭と呼ばれる所で舊藩主
の私園であり後樂園とは自ら別箇
のものでありました　寫眞はその
一部石の橋附近

大泉水と蓬莱島

大泉水は自然の地形を利用したもので神田上水を誘導し　蓬莱島は家光將軍の意匠と傳へられ名匠佐兵衛の苦心に成りました　島には辨財天祠があります　この池と島は實に本園の主景であります



椶櫚山

渓流に沿ふ深山幽谷の景を寫したもので椶櫚を多く植ゑてあります　別に木曾山とも呼びます

石疊苑路

園内各所の山道に用ひられ寫眞は木曾谷の一部であります　光圀の支那趣味の現れと謂はれてゐます

蓬萊島の辨財天祠

蓬萊島の德大寺石

德大寺石附近
蓬萊島は遊龜を象つたものでその龜首に當る所に德大寺石があります。本園の創築者にして蓬萊島に妙技を振つた德大寺佐兵衛を記念して巨石の名とされて居ります

西行堂

昔西行法師の木像を置いた堂宇で堂前の西行の名歌「道のべに清水流るゝ柳蔭しばしとてこそ立ちどまりつれ」の歌碑は齊昭夫人の筆碑陰は佐藤一齋の撰書、尚渓流の畔の「駐歩泉」碑は右の歌意を取つたもので齊昭の筆であります

涵徳亭

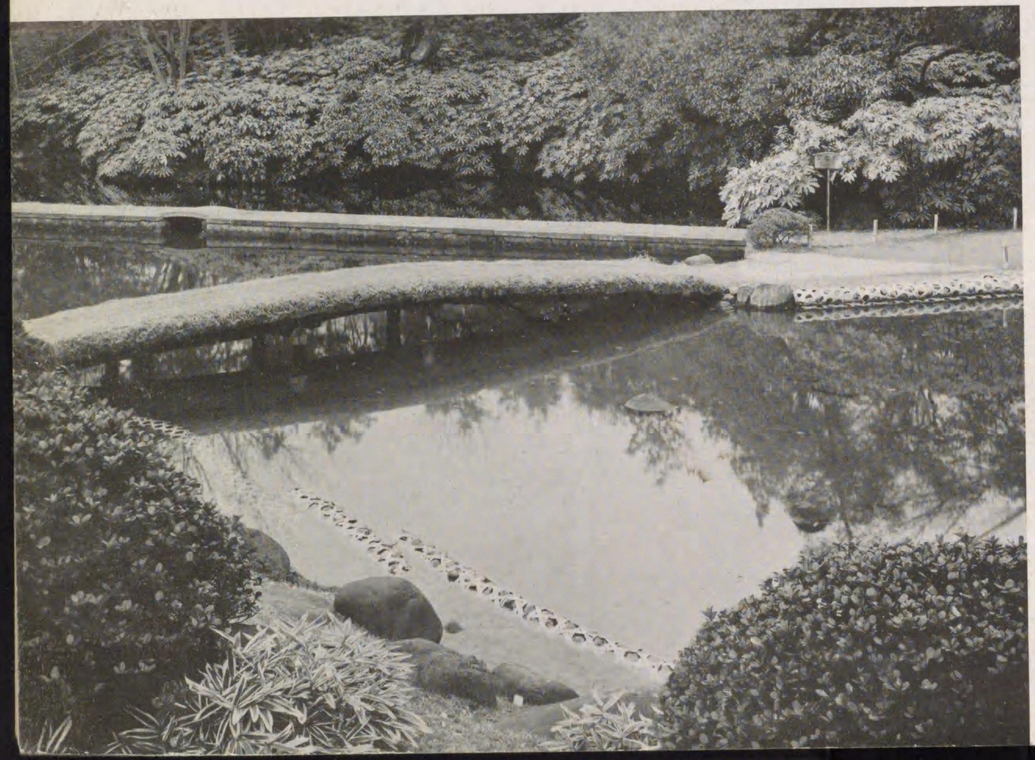
本園創築時代に造られた茶室で周囲は當時珍らしかつた硝子張であつたので「びーどろ茶屋」と呼ばれてゐましたが後年林信篤が「涵徳」と亭名を付けました　明治末年焼失後會議室が造られ舊名を襲用してをりましたが大正十二年再び焼失し今度び江戸時代の意匠を參照して復舊したものであります

一ツ松附近
大泉水の北端にある巨松で、近江の琵琶湖を模した大泉水に對して白ら唐崎の一ツ松を思はせるものであります

小廬山
支那の名山「廬山」を模した築山で林巒山の命名になり全山には巨木鬱蒼として小笹が生茂つてをります

大堰川

京都の名所を寫したもので園の主景となつてをります　此處は三代將軍が特に愛された意匠で川原には將軍腰掛岩と傳へられるものがあります



西湖堤と渡月橋

西湖堤は支那の名勝西湖の景を寫したもので堤は蘇水の意匠と傳へてをります　又渡月橋は京都嵐山の名所を模したものであります

通天橋

朱塗の反橋で大堰川上流の溪谷に架設されてをります　此附近は京都東福寺の景を寫したものであります　この右側には清水觀音堂音羽の瀧があります

屏風岩

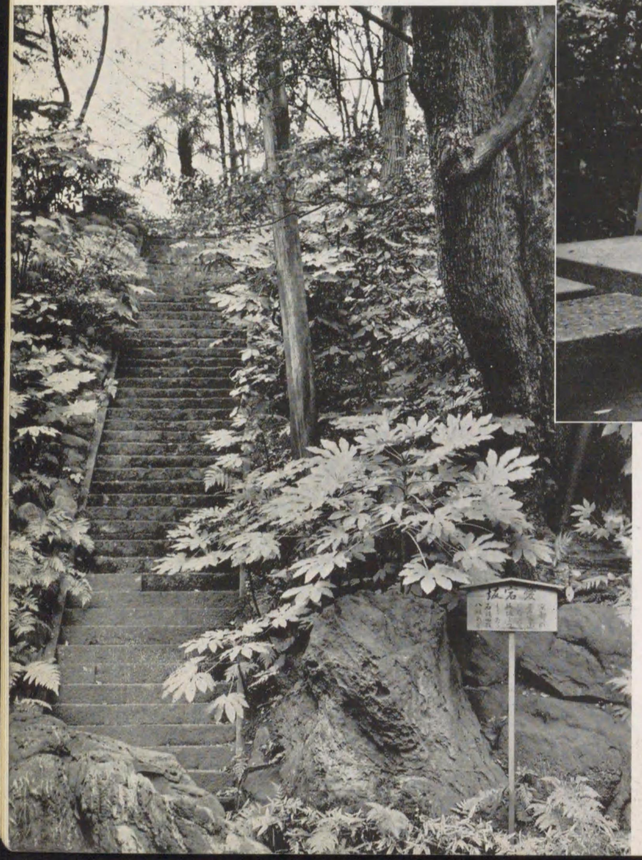
大堰川左岸にあり三枚岩とも呼ばれてゐます　この右に見える松は三代將軍手帛懸松と傳へてゐます

丸　屋

葦の丸屋の意を寓した田舎屋で自然木を柱とした休憩所であります

得仁堂

光圀十八歳の時「伯夷傳」を讀みその高義を慕って後年園中に伯夷叔齊兄弟の像を安置して修養に資したものであります　堂名は孔子が夷齊を評した句「求仁得仁」に依ったもので　別に孔子堂と呼ぶのも之に基いてをります



愛宕坂

京都愛宕山の景を寫したもので石階は四十八級を數へます

四月橋

橋影水面に圓月の姿を落すので此名があります　古來園中の名物で舜水の意匠設計に成り名匠駒橋嘉兵衛の築造に成りました　曾て吉宗將軍は感賞の餘り之を江戸城吹上御苑に新設せんとして遂に果さなかつたと傳へてをります

白糸瀧

富士の白糸瀧を寫したものと謂はれ　昔は音羽瀧に對して新瀧と呼ばれてゐました

田毎附近

田端ともいひ、水田であります　光圀は夫人に農夫の粒々苦辛を知らしむべく特に水田を作つて農耕を實習せしめたと傳へます　水面に映る月影は信州田毎を象つたものです

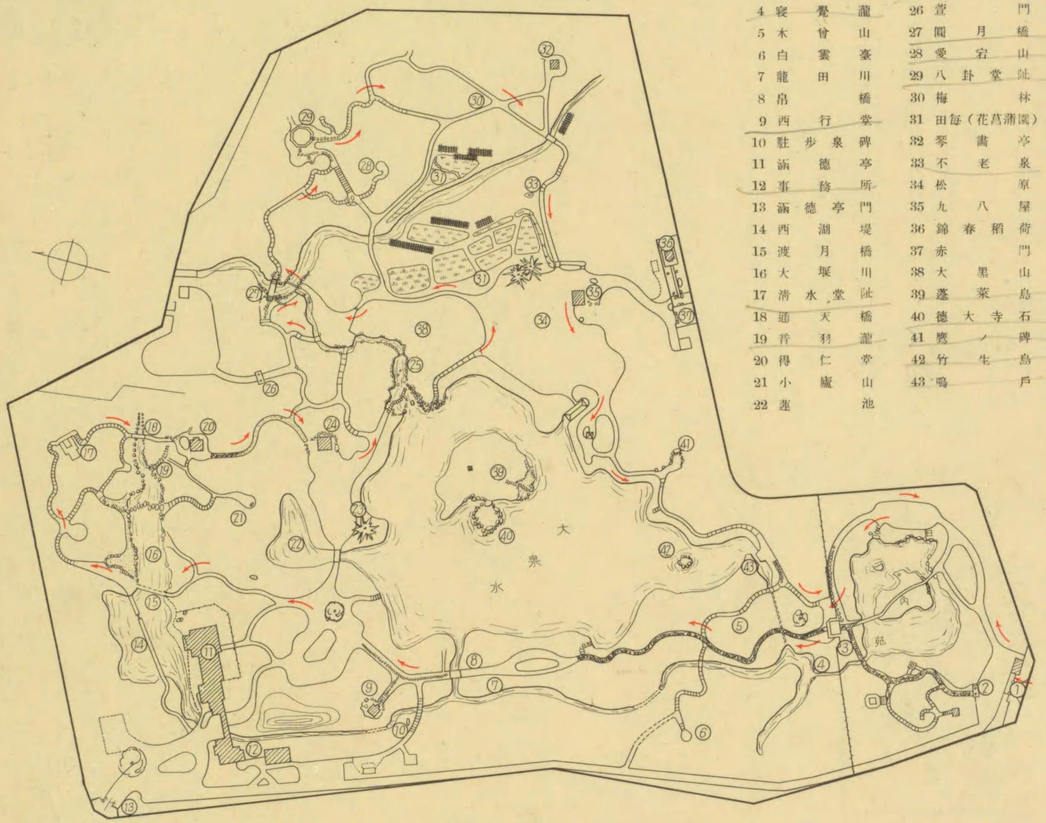
八ッ橋と藤棚

松原と九八屋

數百年來の巨松枝を交へ光圀の最も愛した所と謂はれます　九八屋は田舍風の四阿で酒は靈九夜八分を適量とする所から亭名とした由です

梅林附近

小石川後樂園平面圖



1 假表門
2 舊錦春門
3 唐門
4 寢覺龍
5 木曾山
6 白雲臺
7 龍田川
8 吊橋
9 西行掌
10 駐歩泉碑
11 涵徳亭
12 事務所
13 涵徳亭門
14 西湖堤
15 渡月橋
16 大堰川
17 潺水堂趾
18 通天橋
19 音羽瀧
20 得仁堂
21 小廬山
22 蓮池
23 一ツ松
24 丸屋瀧
25 白糸門
26 萱橋
27 圓月山
28 愛宕山
29 八卦堂趾
30 梅林
31 田毎（花菖蒲園）
32 琴書亭
33 不老泉
34 松草屋
35 九八屋
36 錦春稲荷門
37 赤山
38 大黒島
39 蓬萊島
40 徳大寺石碑
41 鷹ノ島
42 竹生島
43 鳴戸

竹生島

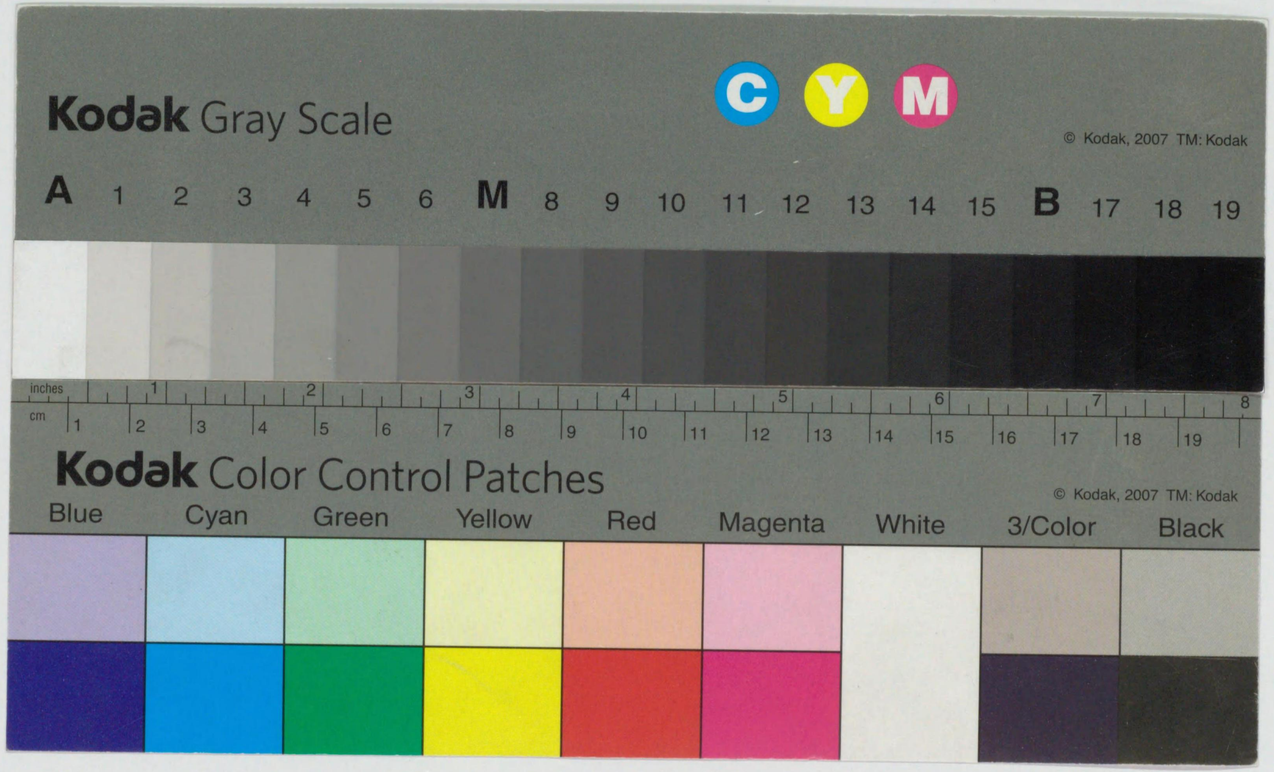
琵琶湖の竹生島を象つたものでこの寫眞は鳴門より竹生島、蓬萊島及小廬山の遠景を望んだものです

751
1

昭和十三年三月三十一日印刷
昭和十三年四月　二　日發行

東京市麹町區丸ノ内三丁目一番地
編輯並發行者　東京市役所

東京市品川區東大崎一ノ五三二ノ二
印刷者　體　光村原色版印刷所


Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches
cm
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black